魅力あふれる提案

フォーデック　春のグランドフェア

【日本文具新聞社発】株式会社フォーデック（山尾剛志社長、広島市）は、1月25、26日、西区商工センターの広島サンプラザホールで「Shift to NEXT～魅力あふれる提案で次のステージへ～」をテーマに、「2024春のグランドフェア」を開催、売上実績約8億円、209店351人が来場、熱気あふれる商談を展開した。2日目のユーザーフェア来場数は106社204人だった。

初日、午前8時50分から行われた開会式で、山尾社長は能登半島地震へのお見舞いを述べた後、2024年の干支、甲辰（きのえ・たつ）について『新しいことに挑戦して成功する』『これまで準備してきたことが形になる』大変縁起の良い年と言われている。ちなみに、前回の甲辰は60年前で、私が生まれた年でもあるが、東京オリンピック、新幹線開通などの大きな出来事があった」と紹介。次いで、業績の概況について「今期に入り7カ月が経過したが、前年並みの数字で推移している。ビジネスパートナー事業部は、店頭はコロナ後も来店客が戻らず、納品も大型案件の失注があり苦戦しているが、今期より販売店のユーザー訪問を始めたことで、案件獲得の兆しが見え始めた。オフィスソリューション事業は、主力のMFPがペーパーレス化でメーカー出荷数は前年割れ、買い替えのスパンが伸び厳しい状況が続いている。DX化を推進する企業が増え、それに伴いセキュリティやシステムなどのソフトの案件が増えてきている。オフィス環境事業は、前半は物件数が少なかったが、これからの最需要期に大型物件の受注が控えており、しっかり刈り取りたい。厳しい経営環境の中、物流問題と賃上げ促進という2つの社会問題にも直面している。今回のグランドフェアのテーマに掲げたように世の中は常に変化しており、時流に乗ったビジネス活動を進めていかねばならない。地域商社としてモノを届けるだけでなく、提案というソフトを販売店、ユーザーへ提供することで、顧客から真っ先に声がかかる企業『ファーストコールカンパニー』を目指す。このフェアはメーカーと販売店、ユーザーの3者をつなぐ場であり、お客様から『来て良かった』、出品メーカーから『出品してよかった』と言ってもらえるよう全社員が一丸となって頑張るので、支援を願いたい」と挨拶。

多彩な商材提案する会場

出品メーカーを代表してシヤチハタ・舟橋正剛社長が「今年は地震や飛行機事故など波乱に満ちた年明けとなった。円安は続く予想の中、物価高に負けない賃上げが必要になる。物価の安い日本は訪日客の消費も伸びている。業界メーカーは世界に誇る製品を生み出しており、今後も世界に称賛される商品開発を積極的に行っていきたい」と挨拶。

ビジネスパートナー事業部・大田部長の連絡、注意事項説明の後、サンスター文具・吉松幸芳社長の音頭で三本締めを行い、開場した。

出店116社から新製品や売れ筋商品、話題商品が一堂に会した会場には、広島市内を中心とした来場者が各小間で熱心な商談を展開した。「提案コーナー」は、バックオフィス業務の効率化を支援する「DX・ICTコーナー」をはじめ、緊急地震速報配信サービスや電池不要の懐中電灯など、最新の防災商品やサービスが体験できる「防災・BCPコーナー」、電気自動車充電器導入をワンパッケージで提案した「環境コーナー」、PRノベルティ提案の「販売促進コーナー」に加え、出展各社の一押し商品、新製品などを紹介したコーナーや高級筆記具を一堂に集めたコーナーなど、拡販を支援する多彩な企画が好評を博した。

初日午前9時半から行われた記者会見には石田信正会長、山尾剛志社長、岡本祐太郎専務、長野学常務、大政史生取締役、松原竜二グランドフェア実行委員長、日本通商・中田哲郎次長が出席。松原実行委員長より3事業部の垣根を越えた提案や来場予定、フォーデックコーナーの説明などが行われた。

新製品コンテストは51社51アイテムがエントリー。上位入賞商品は1位・日本出版販売「Fonteミニガラスペン什器セット」、2位・日本理化学工業「プリキ缶ダブルクリップ」、同位・ヤマト「アラビックヤマトクリアドロップ」、4位・サンスター文具・metacil schoo1」、5位・三菱鉛筆「ジェットスト150カラー軸」

なお、秋のグランドフェアは9月12、13日広島サンプラザホールで開催予定。

府産業の発展に尽力

大阪府商工関係者表彰式

団体役員で梶田、鴨谷、山口氏

大阪府は、府の商工業振興発展に功績のあった個人若しくは団体を表彰する「大阪府商工関係者表彰」を実施しているが、今年度の受賞者183人6事業所が決定し、2月16日午後2時より、大阪市中央区のエル・大阪（府立労働センター）で表彰式を開催した。

当日は、山口信彦大阪府副知事が「商工関係者表彰は、技術の著しい進展や急激な経営環境の変化の中で、長年にわたり大阪の商工業の発展を支えてきた人に贈るもの。大阪ものづくり優良企業賞は、大阪の中小企業が持つものづくり業を示す看板企業に授与するもの。大阪製ブランド表彰は、確かな技術力に裏打ちされた想像力に溢れ、大阪のブランドイメージを高める製品を認定するもの」と吉村洋文知事の挨拶を代読、同副知事より表彰状を授与した。

表彰受けた田村、山口、梶田、鴨谷氏

表彰を受けた人は、団体役員として5年以上従事し、業界の振興と府産業の発展等に尽力した功績が顕著な人98人。団体職員として10年以上職務に精励し、成績優秀で団体の振興発展に尽力した人22人。従業員として10年以上業務に精励し、成績優秀で府産業の発展及び技術の改善等に尽力した人63人。

また、事業所等として10年以上府産業の発展及び技術の改善等に寄与し、業績が良好でかつ内容が健全であって、現在活発に活動している他の模範となる6事業所が表彰された。

さらに「大阪ものづくり中小企業表彰式（「大阪ものづくり優良企業賞2023」及び「令和5年度大阪製プランド」表彰式を開催した。

業界関係の表彰者は次の通り。敬称略

【団体役員】

梶田安彦（八尾商工会議所副会頭、不易糊工業社長）、鴨谷仁（一般社団法人大阪府経営合理化協会理事、コーキ封筒社長）、山口孝弘（大阪文具事務用品協同組合理事、栄光社社長）

【従業員】

河原智明（ユニオンケミカー）、笹野忠彦（サクラクレパス）、田村尚（セキセイ）、蔦屋幸次（シード）、秦力泰（LIHIT LAB.）、吉田新一（LIHIT LAB.）

活気と熱気を発信

青雲クラウンフェア

メーカーと販売店繋ぐ場

株式会社青雲クラウン（青山英生社長、名古屋市）の「クラウンスプリングフェア」は、2月7日に名古屋市千種区の名古屋市中小企業振興会館第1、第2ファッション展示場で「change the of fice mirai」―オフィスの未来をデザインする―をテーマに開催、多彩な需要期商材の展示やセミナーなど多彩な内容で構成し、活発な春需商戦を展開した。

当日は8時50分から朝礼を行い、青山社長が「今日の来場者は販売店400社800人を予定している。長野、新潟を含め30数社が来場できないということも聞いているが、何とか当初目標の来場者を確保したい。フェアには139社が出展し、このうち新規メーカーは13社。この会場ですべてのメーカー、販売店、当社が話した会話量を100とした場合、この会話量を150にしたいという数値目標を持っている。我々はリアルで商売をしているので、見て、触って、勉強するわけだが、会話することをメーカーに望み、当社社員が先頭に立って会場を作っていきたい。景気もいいと聞いているが、活気と熱気をこの会場から発信していきたい。来場する販売店には2月、3月の商売に向けて活気を持って帰ってもらいたい。見本市では納品店へのビジネスでは新しいビジネスモデルを紹介し、今回もDXなどのプログラムや従業員とのエンゲージメントを高めるスマホアプリを紹介している。また、ドキュメントのスキャニングサービスも考えている。店舗系には商品提案力を超え店舗展開力、マーケティングという概念が卸には少なかったが、店舗のマーケティング力も考えていく。今年も新規のお客の引き合いもきているので頑張っていきたい。物流の2024年問題も大変だが、メーカーと話し合ってオペレーションを解決していきたい。1000社を超える販売店に対して昨年末段階で90%がWeb請求書に変わったが、こういう時代であるということを認識しビジネスを展開していきたい」と挨拶。

朝礼で挨拶する青山社長㊤とフェアの会場

出展社を代表して株式会社トンボ鉛筆・小川晃弘社長が祝辞を述べた。

会場は、2階の第1ファッション展示場に文具・事務用品関連、3階の第2ファッション展示場に事務機器関連と、「はじめてのDX化」にTUNAG！～中小企業の人手不足を解決～、高騰する電気代に勝つ！経営コスト削減に挑戦！！業務用空調機器・冷凍冷蔵庫使用電力を10～30%も削減する「レイバイリフレッシャー」提案、をテーマにしたセミナーを開催した。

青山社長は「納品店のビジネス領域を広げることや、店舗に人を呼ぶアイデアを出すのが我々の仕事。メーカーの新製品だけを持っていく時代ではない」としていた。

コロナ前の事業遂行

文紙会館・理事会と評議員会
文交倶楽部総会

資産運用が円安で高配当

志方理事長

一般財団法人大阪文紙会館（志方弘嗣理事長）の理事会及び評議員会と大阪文交倶楽部（志方弘嗣代表世話人）の総会が、1月31日、大阪市中央区の文健会館で4年振りに開催、文紙会館の任期満了に伴う役員改選では、志方理事長以下ほぼ全員が留任した。

大阪文紙会館の理事会及び評議員会は、午後3時30分から行い、秋山敏事務長の司会で進め、出席者報告のあと志方理事長が「2020年に理事長に就任して以来4年振りの挨拶となる。昨年度はコロナもほぼ明けて通常通りの事業が出来た。決算面は予定通りで大きな支出もなく、また基金の運用益が4・6%の高利回りで1850万円の配当があり、例年通り在阪業界団体に各50万円、計200万円の寄付ができた。また、今後も各位の協力を得て会館運営に尽力していきたい」と挨拶し、議案審議に移った。

㊤文紙会館の理事会、評議員会㊦文交倶楽部の総会

議案は、理事会、評議員会でそれぞれ令和5年度事業報告及び収支決算、令和6年度事業計画案及び収支予算案、任期満了に伴う理事長選任及びその他役員委嘱などで、全議案原案通り承認可決した。

役員選任では、辻重幸理事が退任したほかは、全員が留任した。

理事長　志方弘嗣
副理事長　紀寺一男、西村彦四郎、金澤利治
会計理事　山路正俊
理事相談役　村田太一郎
理事　石元正敏、徳弘滋、松本武久、西川雅夫、西村佳美
監事　斉藤孝一、梶田安彦
参与　田中経久

また、令和5年度資産運用実績報告では、村田資産運用委員長が昨年度は円安により高利回りとなったと、近年の基金の運用状況を説明した。

なお、今年度より志方理事長が運用委員長に就き、また、紀寺一男、石元正敏委員が退任、代わって杉浦正樹、水谷豊、寺浦浩之の3氏が就任した。

この後、大阪文交倶楽部の総会を行い、原案通り承認、事業計画案では、春の日帰り旅行は5月15日、秋は11月15日に、また、ゴルフ会も予定していることを伝えた。

なお、永年、日帰り旅行会を続けているが、開催場所の選定が難しくなってきていることから、会員に行ってみたい所や店、やって欲しい事業についての意見をアンケート調査、今後の参考にする。

この後、約70人が参加して懇親会を開き、西村佳美世話人の司会で進め、黒田純司世話人の開会挨拶、年男に記念品の贈呈を行い、村田太一郎世話人の乾杯の音頭で開宴、賑やかに歓談し、抽選会も行って盛り上がった。最後に西村彦四郎世話人の閉会の辞で閉じた。

アフリカ諸国へ「テッテ」3万台

キングジムが寄贈

株式会社キングジム（宮本彰社長、東京都）は、国際社会共通の目標であるSDGsの達成につながる取り組みの一環として、特定非営利活動法人コートジボワール日本交流協会を通じて、アフリカ諸国へアルコールディスペンサー「テッテ」3万台を寄付した。

この贈呈式は2月2日、駐日コートジボワール共和国大使館で執り行われた。